

平成 27 年 11 月 1 日

京口門だより No. 25

11 月 8 日は今年の立冬です。寒いのか暖かいのかよくわからない気候がつづいています。変ったウィルスなどが流行していると言われていました。

「冬立ちにけり町角の珈琲の香」(伊丹三樹彦)

当診療所の院内掲示板に先月から、漢方の代表的風邪薬がどんな時期のどのような症状効くかを書いたチラシを貼り付けています。ご希望であればコピーしたものをお渡しできます。寒い時期になるとこのたよりでも、よく漢方の風邪の治療について書いてきておりますが、少なくとも当診療所にかかっておられる方は、風邪薬といって葛根湯を 1 週間も 2 週間飲むようなことはなさらないでください。

先日も漢方にかかわる地方の学会が開かれ、参加し、座長もつとめてまいりましたが、いろいろと興味深い発表がありました。いくつか紹介いたします。ある医師は、高齢になると腱鞘炎(けんしょうえん)を起こしやすくなるので、それを漢方薬や鍼灸で治すほうが、整形外科での注射や手術よりは上手く治るという例を発表しておられました。私も大いに賛成です。年をとってくるとあちこちの筋力が衰えてくるので、すぐに手指の腱鞘炎をおこしてきます。ごく初期なら鍼治療もよいのですが、少し長くなるとお灸の治療が最も効果的です。お灸なんて熱くて跡がついて嫌だと言われるかもしれませんが、手術をすることをおもえば、できないことはありません。手根管症候群というほとんど手術をすすめられる腱鞘炎でもお灸で治ってしまいます。

また別の先生は、慢性腎臓病で腎機能が低下し、クレアチニンや腎臓のろ過率の低下した人には、現代医学でも有効な治療手段がないのですが、現在西洋医学で行われている治療よりも、漢方薬の黄耆という薬を用いると、きわめて有効で、西洋医学よりも有意差をもって有効であると発表されておりました。これも私は大いに賛成です。慢性腎臓病に黄耆を使うことは以前から言われておりましたが、私も何人かの慢性腎臓病や腎不全の方に使ってみて大変良い結果を得ています。ある人たちは多量の黄耆を使わなくては効果がないようなことを言っていますが、実際使ってみますとそんなに多量使う必要はありません。通常量よりも少し多いくらいで有効です。

その他いろいろとありましたが、有意義な会でした。

